

令和6年度 山形県立長井工業高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

教育目標 （目指す生徒像）	(1)「人間性の育成」責任感と協調性を重んじ、礼儀正しく思いやりのある、心身共に健康な人間の育成
	(2)「創造性の育成」確かな学力を身に付け、創造性豊かで実践力のある、たくましい人間の育成
	(3)「社会性の育成」ものづくりと、地域と連携した活動を通して、社会に貢献できる人間の育成

第6次山形県教育振興計画（後期計画）

基本目標：人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり

テーマ：つなぐ～いのち、学び、地域～

目指す人間像：「いのち」をつなぐ人 学びを生かす人 地域をつくる人

全体を貫く基本姿勢 広い視野と高い志を持って

【達成度】A:十分達成できた B:ある程度達成できた C:あまり達成できていない D:まったく達成できていない

自己評価						学校関係者評価	総括
番号	重点目標		評価基準	目標の達成状況、達成にむけた取組み状況と分析	達成度	成果と課題、次年度に向けた改善策	
1	社会を生き抜く 確かな学力の育成	学習指導	①「観点別学習状況の評価」実施を含めた指導と評価の改善 ②一人一台端末を活用した業務のICT化への対応とスキルの校内共有 ③「総合的な探究の時間」におけるキャリア教育を意識した切れ目のない指導内容の確立 ④新規導入した「デジタル産振設備」を活用した教育実践の充実	教職員による評価の平均がB以上になること。 今年度で新教育課程に移行して完成年度になりました。3つの観点から、評点および評価（1～5）の整合性について教職員研修会を実施しました。生徒および保護者にも資料を配布し定着しました。 各教科の授業や生徒会などの特別活動だけにとどまらず、アンケートなどで日常的に使用する機会が増えてきている。 (1学年)身近な進路課題の探究や、自己理解のための自己PR書の作成などに計画的に取り組んだ。 (2学年)年間の予定表を作成し実施。学年会で進捗についてその都度確認しながら、改善を行い取り組んでいる。 課題研究、実習、製図などの授業で活用した。	B 1・2年で実施している「総合的な探究の時間」について、学年主導から、教務部、進路部、学年が連携し、指導計画の見直しをはかり、学校全体で共通認識した内容を実施していきたい。 Wi-Fiを利用できるエリアの拡張を行って、一部の実習室で端末利用が可能となった。 次年度に向けて、校務支援システムの導入も視野に入れ準備を進めていく。 (1学年)書く機会が減ってきている現状をふまえ、次年度は志望理由書の作成や作文添削などを実施する。 (2学年)生徒はテーマに沿って調べ学習等を行い、資料をまとめ人前で発表することで、作成だけに留まらず、成果が他人に見えることで、自信や発表態度・話す速さ・聞く態度が向上した。課題としては、職業についてなどのテーマに合わせた学習であったため、始めから意欲的に取り組む生徒が少なかった。次年度に向けてテーマをもう少し柔軟なものとし、興味関心のあるものにできれば深く学べるのではと思う。インターンシップ関連で1年時よりテーマに充てられる時間数は少ない。 専門科目での活用範囲を、さらに広げることができた。	長井工業高校の全校課題研究発表会は、内容のレベルも高く、発表も堂々としており、大変素晴らしい。来年度以降も引き続き長井南中学校と長井北中学校の2年生を招待し、長井工業高校の魅力を伝えてほしい。 学校説明会や体験学習会の評価では、良好なものが多かった。 保護者の学校評価アンケートでは、入学させて良かった、PTA活動が充実している等、満足度が高いことがうかがえ、信頼されている学校であると感じる。 インターンシップや企業見学で、生徒が希望する企業に行けるような方法があるとよい。西置賜産業会も協力することができる。 高校でのWi f i環境について、実習室や体育館も含め、すべての場所で接続できるようになるとよい。小中学校では、すべての教室での接続が可能であり、活用も進んでいる。特に小学校は進んでいる。	今年度も、地域有識者・行政関係者・企業経営者・大学関係者・PTA役員から成る7名の学校関係者評価委員会（学校評議員会と同一メンバー）を設置した。 多様な視点で、アンケート項目や学校のPR等について、ご意見やご助言をいただいた。 例年1月中旬に開催している全校課題研究発表会は、参加者から発表の仕方や内容のねばるについて素晴らしいと高評価を得ている。 昨年度から、長井南中学校と長井北中学校の2年生を招待しており、本校への志願につながっているか、入学生へのアンケート等を実施して、調査を行っていききたい。 学校説明会や体験学習会では参加者から概ね高評価を得ているが、さらに工夫を重ね、より多くの中学生に「ものづくり」や「工業」の楽しさを伝え、入学者増につなげていきたい。 キャンパス制交流事業では、荒砥高校と協議しなら、行事等を精選し、より生徒の成長につながる事業を展開していく。 産業教育連携協議会の事業の企業見学会では、今年度、西置賜地域の企業を多く見学することができた。地元の企業の良さを知ること、学校目標にもある、地域愛を育み、地域に貢献できる生徒を育成していく。 来年度も引き続き、事業について工夫しながら、最大の課題である入学者数を増やしていく。
2	社会で自立できる 基礎的な力と実践力の育成	生徒指導 特別活動 進路指導	①基本的生活習慣の確立と規範意識の向上（SNS利用、成年年齢引き下げ対応を含む） ②特別活動や部活動、コンテスト等への積極的な参加を推進 ③ボランティア活動への積極的な参加の推進 ④キャリア教育と基礎学力向上が結びついた進路指導の更なる研究	教職員による評価の平均がB以上になること。 SNSの不適切な利用があった。今後も注意喚起が必要である。 マイコンカーラリーにおいて全国大会出場、各種コンテストへ出場し入賞。 陸上競技において東北大会出場。 年度当初予定していたボランティア活動には参加できたが、小集団でのボランティア参加を推進することが出来なかった。 求人数、求人倍率も好調で就職希望者は12月末で全員内定。また進学希望者も同様に年内に全員合格した。就職者の県内割合は68%で、前年度より9ポイント下がったが、相変わらず地元志向が強い。学年、科など関係職員の連携と根気強い指導が実を結んだ。	B 学校生活全般に落ち着きが感じられた。 引き続き注意喚起を行う。 合同チームによる出場の部活動が多いため、練習に関して苦労している。個人競技やコンテストでの活躍がみられる。 生徒数と部活動の数について検討が必要である。 ボランティア活動を行うことはできるが、生徒自身が自らボランティア活動に申し込み・参加できるようにしたい。ボランティアの募集を積極的に紹介する必要がある。生徒会が先頭に立ちボランティアに参加する必要がある。 作文・小論文に向けた細やかな指導もあり、進学においては全員が第1志望校に合格した。就職達成率100%ではあるが、1回目(第1志望)の就職試験で3名が不採用だった。基礎学力の向上、適性検査対策、面接試験に向けた指導をさらに充実させていく必要がある。	学校説明会や体験学習会の評価では、良好なものが多かった。 保護者の学校評価アンケートでは、入学させて良かった、PTA活動が充実している等、満足度が高いことがうかがえ、信頼されている学校であると感じる。 インターンシップや企業見学で、生徒が希望する企業に行けるような方法があるとよい。西置賜産業会も協力することができる。 高校でのWi f i環境について、実習室や体育館も含め、すべての場所で接続できるようになるとよい。小中学校では、すべての教室での接続が可能であり、活用も進んでいる。特に小学校は進んでいる。	今年度も、地域有識者・行政関係者・企業経営者・大学関係者・PTA役員から成る7名の学校関係者評価委員会（学校評議員会と同一メンバー）を設置した。 多様な視点で、アンケート項目や学校のPR等について、ご意見やご助言をいただいた。 例年1月中旬に開催している全校課題研究発表会は、参加者から発表の仕方や内容のねばるについて素晴らしいと高評価を得ている。 昨年度から、長井南中学校と長井北中学校の2年生を招待しており、本校への志願につながっているか、入学生へのアンケート等を実施して、調査を行っていききたい。 学校説明会や体験学習会では参加者から概ね高評価を得ているが、さらに工夫を重ね、より多くの中学生に「ものづくり」や「工業」の楽しさを伝え、入学者増につなげていきたい。 キャンパス制交流事業では、荒砥高校と協議しなら、行事等を精選し、より生徒の成長につながる事業を展開していく。 産業教育連携協議会の事業の企業見学会では、今年度、西置賜地域の企業を多く見学することができた。地元の企業の良さを知ること、学校目標にもある、地域愛を育み、地域に貢献できる生徒を育成していく。 来年度も引き続き、事業について工夫しながら、最大の課題である入学者数を増やしていく。
3	安心・安全で元気な 学校づくり	いじめ防止 保健衛生 安全指導	①いじめ防止と早期発見後の組織的な取り組みに対する共通理解の促進 ②心身の健康の保持増進するための実践力の育成（検診後の受診率の向上、自己肯定感を高めるための取り組み） ③自他のいのちを守る安全教育の推進（交通安全、実技・実習等での事故防止）	教職員による評価の平均がB以上になること。 いじめに関するアンケートを2回実施した。記載内容については、面談等を行った。 新型コロナ・インフルエンザ感染症について、予防対策を徹底してきたが学級閉鎖の状況が発生した。また、それに当たらない体調不良者や欠席者も一時的ではあるが増加し対応を図った。定期健康診断の結果を受け、異常がみられた生徒だけでなく健康な生徒への保健指導も実施した。 昨年度に引き続き実習室の整理整頓を進めた。 職員の指導力向上を図り、ルール順守の指導を徹底した。	B いじめだけでなく、生徒の変化を記録する取り組みにより、いじめを察知できる取り組みを行う。些細なことでも話し合える職場環境を整える。 日常の健康観察や定期健康診断、保健講話など、保健関連の一覧の取り組みにより自己の健康管理について意識して取り組む姿がみられた。さらに日常の健康管理について意識化を高めるため生徒保健委員会の活動を推進する。 実習等において重大事故は発生しなかった。 来年度も実習室等の環境整備及び職員研修を進め、安全性の向上を図る。	学校説明会や体験学習会の評価では、良好なものが多かった。 保護者の学校評価アンケートでは、入学させて良かった、PTA活動が充実している等、満足度が高いことがうかがえ、信頼されている学校であると感じる。 インターンシップや企業見学で、生徒が希望する企業に行けるような方法があるとよい。西置賜産業会も協力することができる。 高校でのWi f i環境について、実習室や体育館も含め、すべての場所で接続できるようになるとよい。小中学校では、すべての教室での接続が可能であり、活用も進んでいる。特に小学校は進んでいる。	今年度も、地域有識者・行政関係者・企業経営者・大学関係者・PTA役員から成る7名の学校関係者評価委員会（学校評議員会と同一メンバー）を設置した。 多様な視点で、アンケート項目や学校のPR等について、ご意見やご助言をいただいた。 例年1月中旬に開催している全校課題研究発表会は、参加者から発表の仕方や内容のねばるについて素晴らしいと高評価を得ている。 昨年度から、長井南中学校と長井北中学校の2年生を招待しており、本校への志願につながっているか、入学生へのアンケート等を実施して、調査を行っていききたい。 学校説明会や体験学習会では参加者から概ね高評価を得ているが、さらに工夫を重ね、より多くの中学生に「ものづくり」や「工業」の楽しさを伝え、入学者増につなげていきたい。 キャンパス制交流事業では、荒砥高校と協議しなら、行事等を精選し、より生徒の成長につながる事業を展開していく。 産業教育連携協議会の事業の企業見学会では、今年度、西置賜地域の企業を多く見学することができた。地元の企業の良さを知ること、学校目標にもある、地域愛を育み、地域に貢献できる生徒を育成していく。 来年度も引き続き、事業について工夫しながら、最大の課題である入学者数を増やしていく。
4	地域に貢献し信頼される 学校づくり	地域連携 情報公開	①学校の応援団としての産業教育連携協議会との連携強化 ②入学志願者を増加させるための地元中学校や地域へのPR活動の充実 ③PTA活動の充実を含めた保護者との連携 ④地域と連携した生徒の健全育成と郷土愛を育む教育の継続実施（「学校奉仕活動」等） ⑤SNSを活用した積極的な情報発信	教職員による評価の平均がB以上になること。 第1回総会を6/5実施、今年度の委員の委嘱、事業計画、予算案を承認していただいた。今年度、2学年の11/21の地域企業見学会では、西置賜地域の企業を見学した。1/15の全校課題研究発表会等に参加していただいている。 長井南中学校、長井北中学校、2年生への学校説明会、実習設備見学を行った。10/5に中学生向け体験学習会を実施した。長井南中学校、長井北中学校の2年生を全校課題研究発表会(1/15)へ招待した。 PTA研修事業として県内企業・学校見学会を実施した。また、高校生マナーアップ運動に合わせたあいさつ運動や長工祭における模擬店の運営など、保護者等の協力により実施することができた。 あやめ公園の清掃活動は、春は実施できたが秋は天候不良により実施できなかった。「Let's Lock 花プロジェクト」を地域の方々と連携し実施できた。 荒砥駅構内の車両基地で列車の清掃活動を行った。 本校公式Instagramを利用し、校内の様子をタイムリーに発信。また視聴者が楽しめるようなコンテンツを作成しPR活動に貢献した。	B 昨年度から設立した協議会である。昨年、地域企業見学会で、西置賜地域の企業を見ていただきたいとの声もあり、今年度は、西置賜地域の企業を見学した。さらに連携できる機会を模索したい。 アンケートでは、概ね好評な意見だった。 来年度も事前打ち合わせを綿密に行い、ニーズに合った学校説明会、体験学習会を展開していく。 今年度からSNS(instagram)を開設し、学校の様子を発信している。 PTA総会への参加者を増やすように努めていく。長工祭における模擬店運営は昨年に引き続き大盛況だった。 あやめ公園の清掃活動については、実施時期と実施方法の検討を行う。 今年度で「Let's Lock 花プロジェクト」が終了した。来年度から「ひまわりの絆プロジェクト」に取り組むかを検討する。 荒砥高校生徒と一緒に多くの生徒が列車清掃に参加することができた。 現状は教員のみでの発信のため、次年度に向けて生徒によるコンテンツの製作と発信を行っていく。	学校説明会や体験学習会の評価では、良好なものが多かった。 保護者の学校評価アンケートでは、入学させて良かった、PTA活動が充実している等、満足度が高いことがうかがえ、信頼されている学校であると感じる。 インターンシップや企業見学で、生徒が希望する企業に行けるような方法があるとよい。西置賜産業会も協力することができる。 高校でのWi f i環境について、実習室や体育館も含め、すべての場所で接続できるようになるとよい。小中学校では、すべての教室での接続が可能であり、活用も進んでいる。特に小学校は進んでいる。	今年度も、地域有識者・行政関係者・企業経営者・大学関係者・PTA役員から成る7名の学校関係者評価委員会（学校評議員会と同一メンバー）を設置した。 多様な視点で、アンケート項目や学校のPR等について、ご意見やご助言をいただいた。 例年1月中旬に開催している全校課題研究発表会は、参加者から発表の仕方や内容のねばるについて素晴らしいと高評価を得ている。 昨年度から、長井南中学校と長井北中学校の2年生を招待しており、本校への志願につながっているか、入学生へのアンケート等を実施して、調査を行っていききたい。 学校説明会や体験学習会では参加者から概ね高評価を得ているが、さらに工夫を重ね、より多くの中学生に「ものづくり」や「工業」の楽しさを伝え、入学者増につなげていきたい。 キャンパス制交流事業では、荒砥高校と協議しなら、行事等を精選し、より生徒の成長につながる事業を展開していく。 産業教育連携協議会の事業の企業見学会では、今年度、西置賜地域の企業を多く見学することができた。地元の企業の良さを知ること、学校目標にもある、地域愛を育み、地域に貢献できる生徒を育成していく。 来年度も引き続き、事業について工夫しながら、最大の課題である入学者数を増やしていく。